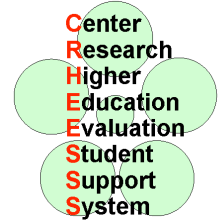


週刊センターニュース No.317



第317号(2010年7月20日)火曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

○●○ 国際的な教育プログラム質保証の一例

— Erasmus Mundus Quality Assessment 紹介

— ○●○

6月17日(木)に開催された大学評価・学位授与機構主催公開セミナー「質を伴った大学間国際連携の推進にむけて: 日本・欧州質保証セミナー〜ボローニャ・プロセスの進展とオランダ地域の取組」に参加し、欧州での教育プログラム質保証の取組についての話を聞いてきた。セミナーの詳細は以下のURLを参考にさせていただきたい。

http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1182125_1207.html

今回は、その中から、欧州委員会において Erasmus Mundus プログラムマネージャーであり、国際的な教育プログラム連携を担当しているウィリアム・アイチソン氏の講演から、多国間にわたる国際的な教育プログラム質保証の取組について紹介させていただく。

Erasmus Mundus 計画とは、国際連携を通して欧州高等教育の質を高める、人材開発促進、異文化理解促進、欧州を世界の学びの中心にすることを目的として 2004 年から進められているプロジェクトである。修士課程におけるジョイントプログラムを中心に、博士課程プログラム、学生、教員への経済援助等を行っている。スタート以来、多様な学問分野において、500 以上の大学が協力し、116 のジョイントプログラムを動かし、8,000 人以上の学生、2,000 人以上の教員が関わってきている。

2008 年から、この Erasmus Mundus 計画で提供されている教育プログラムの質保証活動として Erasmus Mundus Quality Assessment(EMQA)が始められた。EMQA は、評価活動ではなく、教育プログラムの基準を示し、欧州レベルでの新しい質保証の枠組みを構築する試みである。EMQA 実施のための委員会の下、学問分野、地理的条件を考慮し、12 の教育プログラムに対して計 36 回の訪問調査が行われた。訪問調査チームは、欧州委員会メンバー、当該学問分野の専門家、学生、国家レベルの質保証機関メンバーなどから構成されている。訪問調査を通して、Erasmus Mundus 教育プログラムの発展に必要な 4 つの「卓越性の要素(Components of Excellence)」が構築された。それぞれの名称と項目は以下の通りである。

1. 教育と学習の質(Quality of Teaching and Learning, QATL)

カリキュラム設計、コース目標とアウトカムズ、学生の能力開発、学習技術向上、国際的な学習及び就職、言語運用能力、教育及び学習環境、研究活動及び研究施設、教育実践、起業家精神とビジネススキル、インターンシップ、成績評価方法など

2. 施設、事業計画、財政(Facilities, Logistics and Finance, FLAF)

コースへの出願、資格確認、履修前学生(その大学へ来る前の学生)への対応、欧州外学生の欧州

への移動及び欧州学術慣行への導入、提携機関間移動、学生の資金、学生相談、同窓会など

3. リーダーシップと機関の質(Quality of Leadership and Institutions, QUIL)

質の高い教員、コース「ブランド」の確立、機関レベルでの責任、国際的な教育と研究、継続性とリーダーシップ、コース継続戦略、財政面での持続可能性など

4. 実務における連携とコンソーシアムの統合(Joined-up Practice and Integration, JUPI)

学生の選抜、コンソーシアムの情報システム、授業料、コンソーシアム内業務分担、質評価プロセス、コンソーシアムの運営、修士号授与方針など

名称は「卓越性の要素(Components of Excellence)」であるが、内容は質保証の際にチェックする項目である。多国間にわたる国際的教育プログラム質保証であっても、これらの項目は、基本的には日本を含めて各国で実施されている国内教育プログラム評価と大きく異なるものではなく、高等教育プログラム及びその実施にあたっての一般的なものである。

なお、現時点での、EMQA の成果としては、Erasmus Mundus 質保証ハンドブックの作成、オンライン「自己評価ツール」がある。これらは、<http://www.emqa.eu> で見る事が出来る。ユーザ登録は必要となるが、是非一度、このハンドブックと「自己評価ツール」を見ていただきたい。大学連携が基本のため、用語等異なる部分があるかもしれないが、通常の教育プログラムにも読み替えられる内容も多く見られる。

以上、紹介させていただいたように、欧州レベルでは、ボローニャ・プロセス(<http://www.ond.vlaanderen.be/hogeronderwijs/bologna/>)の流れを受けて、多国間における国際教育の提供だけでなく、その質保証活動まで実施されてきている。本稿での情報が、現在金沢大学において進められている大学院教育改革作業への一助になれば幸いである。

(文責 評価システム研究部門 堀井祐介)

〇〇〇 新着図書のお知らせ 〇〇〇

大学教育開発・支援センターに、下記の図書が入りました。図書室(総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい)に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

・『日経キャリアマガジン MOOK 親と子のかしこい大学選び 2010年版』『同 2011年版』日本経済新聞社

・大学教育学会30周年記念誌編集委員会編『大学教育 研究と改革の30年—大学教育学会の視点から』東信堂、2010年

・吉田仁美『高等教育における聴覚障害者の自立支援—ユニバーサル・インクルーシブデザインの可能性』ミネルヴァ書房(社会福祉叢書シリーズ)、2010年

〇〇〇 アカンサスポータルにFD・SDカレンダー掲載中 〇〇〇

アカンサスポータル上にFDカレンダー・SDカレンダーを掲載しています。大学教育に関連する学会開催情報、全国の大学や大学コンソーシアムによるフォーラム・セミナーの他、各種研修会情報(FDカレンダーは2010年12月まで更新、SDカレンダーは、2010年12月まで更新)もあります。是非、ご活用下さい。